

## 日本ナシ「新高」の果実肥大促進のための新しょう管理法

〔要約〕日本ナシ「新高」では夏季（満開後60～90日）に新しょうを間引きせん定や、誘引を行うと、葉面積指数(L A I)を低く保ち、果実肥大は促進される。また、誘引した新しょうの花芽着生率は増加する。

長崎県果樹試験場・落葉果樹科

専門

栽培

対象

果樹類

分類

指導

平成13年度長崎県果樹試験場業務報告

### 〔背景・ねらい〕

日本ナシ「新高」は樹勢が強く、新しょうの伸長が旺盛で過繁茂になりやすい。強樹勢樹において葉面積指数（L A I）を低く保ち、果実重の増加及び果実品質を向上するための新しょう管理法について検討した。

### 〔成果の内容・特徴〕

- ①新しょうを夏季せん定するとL A Iは一時的に低くなるが、その後は増加した。新しょうを誘引すると一時的にL A Iは増加するが、その後の変化は少なかった（表1）。
- ②新しょうの夏季せん定及び誘引により果実重は重くなる（表2）。
- ③新しょう長が長い新しょうでも誘引により花芽着生率は高くなり、側枝の更新には有効である（表3）。

### 〔成果の活用面・留意点〕

- ①樹勢が弱い樹や、適正な樹相の樹では夏季せん定は実施しない。
- ②花芽が着生した新しょうは翌年は長果枝として利用可能であり、新高の側枝の使用年数はおおむね5年なので計画的に更新、利用する。

[具体的データ]

表1 新しゅうの処理とL A Iの推移(2000年)

処 理	処理前 <sup>z</sup>	処理後	満開90日後	満開120日後
摘心	2.28 <sup>y</sup>	2.20	2.38	2.65
誘引	2.11	2.48	2.37	2.30
夏季せん定	2.06	1.88	1.97	2.20
無処理	2.21	—	2.49	2.44

<sup>z</sup> 満開60日後

<sup>y</sup> プラントキャノピーアナライザーによる測定値

表2 新しゅうの処理と果実重及び果実品質

処 理	果実重 (g)	果皮色 <sup>z</sup>	地色 <sup>y</sup>	果肉硬度 <sup>x</sup> (kg)	糖度 (Brix)	p H
2000年 <sup>v</sup>						
摘心	510.8	4.1	4.0	4.7	11.7	5.25
誘引	586.1	4.2	4.6	4.6	11.4	5.30
夏季せん定	580.1	4.7	4.5	4.2	11.8	5.22
無処理	517.2	4.0	4.2	4.8	11.3	5.14
2001年 <sup>w</sup>						
誘引	554.6	4.1	4.3	5.1	12.8	4.89
夏季せん定	534.1	4.7	4.5	5.6	12.5	4.80
誘引+夏季せん定	592.4	4.8	4.6	5.2	13.1	4.96
無処理	524.3	3.8	4.2	5.3	12.8	4.75

<sup>z</sup> 豊水用カラーチャート

<sup>y</sup> ニホンナシ地色用カラーチャート

<sup>x</sup> マグネステラー型硬度計(プランジャー径5/16インチ)

<sup>v</sup> 満開60日後処理

<sup>w</sup> 満開90日後処理

表3 新しゅうの誘引と花芽着生率(2001年)

処 理	新梢長 (cm)	基部径 (mm)	芽数 <sup>z</sup>	花芽着生率 (%)
誘 引 <sup>y</sup>	150.7	12.6	26.3	78.0
無処理	136.6	11.8	26.6	57.2

<sup>z</sup> 新しゅう 1本当たり花芽、葉芽の計

<sup>y</sup> 満開90日後に棚面と約45度に誘引

[その他]

研究課題名：西南暖地の特性を活かした晩生ナシの超高収益栽培技術の開発

予算区分：新技術地域実用化研究促進事業

研究期間：平成13年度(平成9~13年)

研究担当者：田中 実、中倉 建二郎、森田 昭、林田 誠剛